



ほけんだより 8月号



令和3年8月1日
すくすくどろんこの会
かすかべ社の保育園
統括看護師：山口 友恵
看護師：小葉 智子

本格的な夏です。汗をたくさんかくと体力を消耗します。食欲も落ちやすくなりますが、きちんと食べてしっかりと睡眠をとり、体調の変化に気を付けながら、元気に夏を楽しみましょう。保育園では、熱中症に注意しながら遊びを行っています。



熱中症予防について

毎日危険な暑さが続いています。当法人では、夏季の外遊び・水遊びは、暑さ指数(WBGT)の実況値に基づいて判断し、保育を行っています。

- ・暑さ指数 31 以上…水遊び・外遊びともに中止。
- ・暑さ指数 31 未満…10～20 分毎に水分補給をしながら水遊び・外遊びを行う。

※暑さ指数とは…湿球黒球温度のことで熱中症を予防することを目的とした指標。気温とは異なるもの。

暑さ指数が 28 を超えると熱中症患者が著しく増加すると言われています。環境省が発表しているのでご家庭でもチェックしてみてください。



虫に刺された時のお願い

一般的な蚊でも、幼児は大人に比べて反応が強く現れる傾向にあり、しこりを伴う赤みや水膨れになることもあります。子供は、痒いと無意識に引っ掻いたり、潰したりして二次感染のとびひになる場合もあります。刺された時は、痒みを抑えてあげる事が大切です。

【虫に刺された時の対応】

- 1 虫に刺された部位を流水でよく洗い流す
 - 2 虫刺されの薬を塗る(刺された直後が効果的です)
 - 3 痒みや腫れがひどい時は冷やす
 - 4 爪は短く切る(とびひ予防)
- ※水ぶくれや浸出液(しる)がある場合は、とびひやお友達への感染の危険があります。家庭から、絆創膏等で保護をお願いします。また、強い痒みや赤み、腫れがひどい時は皮膚科受診をお願いします。とびひの診断を受けた場合で、保護出来ない場合は、登園自粛をお願いします。また、強い痒みや赤み、腫れがひどい時は皮膚科受診をお願いします。とびひの診断を受けた場合で、保護出来ない場合は、登園自粛をお願いします。また、強い痒みや赤み、腫れがひどい時は皮膚科受診をお願いします。とびひの診断を受けた場合で、保護出来ない場合は、登園自粛をお願いします。
- ※虫に刺されない対策もお願いします。

暑さから子どもを守り 夏を元気に乗り切りましょう！



小さな子どもは大人よりも暑さの影響を強く受けます！強い日差しの照り返しで、地面に近づくほど気温が高くなるためです。気象予報などの気温は、地上から150cmの高さで測っていますが、気温32.3度のとき、50cmの高さでは35度超、5cmの高さでは36度超。ベビーカーに乗っている子どもはかなりの暑さにさらされています。

日中の外出は……

- なるべく日陰を選んで歩く
- 暑さの厳しい12～14時の時間帯を避ける

ベビーカーを使うときはここもチェック！

- ①日よけで空気がこもらないように
ベビーカーに装着する日よけは、風通しも悪くなりがちです。日よけの中に熱い空気がこもらないように注意しましょう。
- ②こまめに様子を見て
多くのベビーカーは、シートが進行方向を向いていて、大人から子どもの様子が見えにくくなっています。こまめに顔色やきげんのよしあしをチェックし、汗をふいてあげましょう。

帽子

頭部に直射日光が当たるとめまいや吐き気が起こる。うなじまでカバーできると◎

シャツ

首や袖口がゆったりして風通しの良いもの。汗をよく吸う綿や、速乾性のある素材が◎。暑くて肌着を嫌がる場合は、柔らかいシャツを着せてあげましょう。

スポン

普段は涼しい半ズボン、レジャーでは虫刺され予防に長ズボンといった具合に、場面に合わせて選んであげましょう。

靴

サンダルの方が涼しくてよいと考えがちですが、子どもの足は未熟で骨も柔らかい状態。思いきり遊ぶためには、足に合った運動靴を履くことが大切です。花火で遊ぶときも、やけど予防で靴が◎

